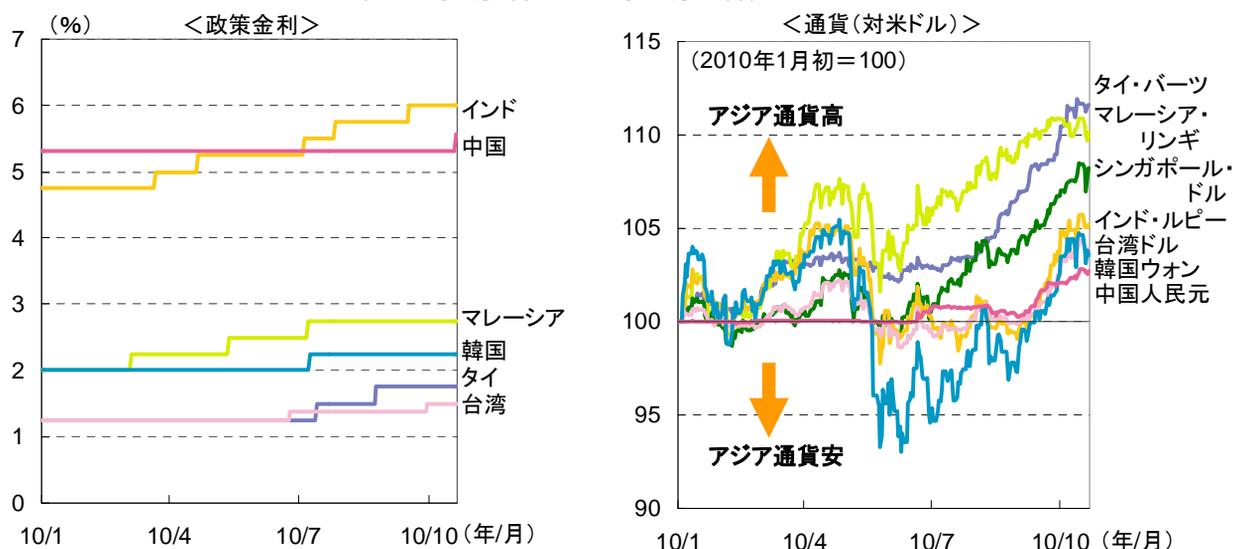


## 通貨上昇はアジア市場の魅力の証し

今週の中国人民銀行(中央銀行)の利上げは、金融危機後初めての実施ということもあって、金融市場で大きな話題となりました。中国の利上げに代表されるように、アジアでは、好調な景気拡大を背景に、政策金利の引き上げを行なう国々がこのところ増えてきています。

中国やアジア各国など、高い経済成長が続く新興国では、インフレや資産バブルを予防するために、政策金利を引き上げる方向にある一方で、景気回復が停滞する先進国では、景気下支えのために、政策金利を下限にまで引き下げ、できるだけ潤沢な資金を市場に供給しようとする金融緩和政策が続いています。このため、新興国と先進国との間の金利差が拡大し、先進国で供給される豊富な資金は、より魅力的な金利を求めて新興国へと流入する傾向が強くなり、新興国の通貨を押し上げる結果となっています。

アジアでは、通貨の変動幅を制限するような管理的な為替制度を採用する国が多いこともあり、従来は通貨の上昇幅は比較的緩やかなものにとどまっていたのですが、ここ1~2か月、これらの国々の通貨の上昇が徐々に目立ち始めています。この背景には、米FRB(連邦準備制度理事会)の追加金融緩和など、先進国における資金供給が今後ますます増大するとの観測が強まる中、魅力的な投資先としてアジア各国への資金流入が一段と活発化していることが挙げられます。管理的色彩の強いアジア各国の通貨が、最近顕著に上昇しているという状況は、従来の規模を大きく上回る資金が、アジア市場に流入している表れと見る事が出来るのではないのでしょうか。堅調な成長が見込まれる魅力的なアジア市場から、投資家は当面目が離せない状況です。

アジアの主な利上げ実施国の政策金利と通貨(対米ドル)の推移  
(2010年1月1日~2010年10月21日)

\* シンガポールには政策金利はありません。政策金利の代わりにシンガポール・ドルの対バスケット通貨の変動幅を調整することで金融政策を実施しています。シンガポール当局は、2010年4月14日に自国通貨の上昇を容認する政策に転じ、10月14日に許容変動幅を拡大させています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。